

「人工股関節全置換術後における歩行時の過度な骨盤の前傾運動と股関節の屈伸可動範囲との関係」

当院では以下の臨床研究を行なっております。

【研究課題】

人工股関節全置換術後における歩行時の過度な骨盤の前傾運動と股関節の屈伸可動範囲との関係

【研究の背景と目的】

人工股関節全置換術後に、歩行時の過度な骨盤の前傾運動が残存することがあります。過度な骨盤の前傾運動は、腰痛症との関連が報告されているため、理学療法で改善を図ることは重要であると考えます。歩行時の過度な骨盤の前傾運動は、股関節の屈伸可動範囲に影響を受ける可能性があります。これらの関係は明らかになっていません。

本研究の目的は、人工股関節全置換術後における歩行時の過度な骨盤の前傾運動と股関節の屈伸可動範囲との関係を明らかにし、術後の理学療法に役立てることです。

【研究の期間】

2022年7月1日～2024年7月1日

【研究対象】

変形性股関節症に対して人工股関節全置換術を施行した患者様で歩行自立し、当院の外来リハビリテーションに通われている方

【研究の方法】

当院のリハビリテーションでは、術前と術後1.5ヶ月、3ヶ月、6ヶ月に運動機能の測定を行なっている。本研究では、その測定結果のうち、術後3ヶ月と6ヶ月のデータを部分的に2次利用し、研究を行ないます。

【利用する情報】

- ・ 基本情報（年齢、性別、身長、体重、BMI）
- ・ 医学的情報（診断名、既往歴、手術記録、治療経過）
- ・ 股関節可動域
- ・ 股関節筋力
- ・ 歩行パラメーター
- ・ 歩行時痛

【予想される利益・不利益】

- 1) 利益：歩行時の股関節の屈伸可動範囲が、過度な骨盤の前傾運動に影響することが明らかになります。これが明らかになれば、股関節の屈伸可動範囲を改善することで、過度な骨盤の前傾運動を改善できる可能性があります。
- 2) 不利益：筋力測定に伴う筋肉痛と歩行パラメーターの測定に伴う転倒が生じる可能性があります。筋力測定では、プレテストを行い徐々に力を入れることでリスクを予防します。また、歩行パラメーターの測定では、理学療法士がつきそうことで転倒を予防します。

【個人情報の取り扱いについて】

本研究の成果を、学術目的のため学会や論文で公表する際には、個人情報を厳重に守り、個人が特定されない形で使用します。

【研究協力の自由について】

研究への協力は自由意志であり、拒否された場合でも不利益はありません。協力を希望されない場合は、お手数をおかけしますが、ご連絡をお願い致します。

【利益相反について】

本研究に開示すべき利益相反はありません。

【研究責任者連絡先】

総合病院土浦協同病院

リハビリテーション部 宮阪隼人

電話 029-830-3711 (代表)